

フェアプレイインタビュー
[柔道]
パーク24所屬
渡名喜風南選手



プロフィール
生年月日：1995年8月1日
出身地：神奈川県

2017年
世界選手権
金メダル獲得!

たゆまぬ努力が実を結ぶ!

日本のお家芸である柔道の女子48キロ級の日本代表として東京五輪での金メダル獲得が期待される渡名喜風南選手ですが、中学・高校時代は今ほど注目を集める存在ではありませんでした。同学年に強力なライバルがいて、常にその背中を追う日々が続いたのです。その存在を乗り越え、念願の世界選手権で優勝したのは大学4年生の時でした。

相手の前に自分と向き合う

渡名喜選手は自らの成長を振り

返って、競い合うライバルの存在は重要だったと認めつつ、それ以上に大切なことがあると言います。
「まずは自分自身を超えられなければライバルを超えることもできない。そう考えて自分の足りない部分と向き合い、何事もあきらめずにコツコツやってきました」
小さい頃から負けず嫌いな性格で、こうと決めたらブレることのない強い信念を持つ渡名喜選手ですが、高校生のとき「自分には協調性が足りない」と感じ、あえて部員が多い大学に進学し、多くの仲間との共同生活を通じて協調性を身につけ

柔道の理念とフェアプレー

柔道には「自他共栄」といって、互いに信頼し、助け合う心を育み

たと言います。さらに社会人1年目には自らの意思で単身モンゴル合宿を行いました。
「体の強いモンゴルの選手が、どのような練習をしているのか知ることができたのですが、食文化も全く違うことがわかり、栄養や体づくりへの意識が変わりました。戻ってからは自分で食事を管理するようになり、今は苦手だった牛肉も食べています」
まずは自分自身と向き合うこと。そして足りないところを克服するために、諦めずにコツコツと努力すること。厳しく自らを律して壁を乗り越えてきた渡名喜選手ですが、常に厳格に行動できたわけではないと笑います。
「何か壁にぶつかったと感じたときは無理をしないことも大事。私の場合、また動きたくなくなるまでいったん休むようにしています」
このような柔軟な考え方も、コツコツと努力し続ける上で大切なことなのでしょう。



「フェアプレイ宣言」しました!!

自分だけでなく他人と共に栄えることが大切だという理念があります。渡名喜選手も大切にしているこの理念に、フェアプレーの精神が詰まっています。
「真剣勝負を終えた後の表彰で、勝者と敗者が笑顔で称え合うシーンが好きです。勝敗は分かれても、お互いのことを尊重しているからこそ振る舞いだと思っています」
東京五輪では、各国のライバルとともに称え合いながら表彰台の真ん中に立つ渡名喜選手が見られるかもしれません。

仲間への感謝と尊敬を忘れない

バスケットボール
選手として活躍中の
八村塁選手

ルールもわからず
当初は同級生みんなに
助けてもらうことも
多かったが

競技を始めたのは
中学生の時だった

しかしー

おい!!

何してんだ!

簡単な
シューティング
ちゃんと
決めてこい!

仲間に対し
強くなり
チーム内の
雰囲気を悪くする
こともあった

お前が
バスケットを始めた頃に
手取り足取り
教えてくれたのは
この子達じゃないか

仲間への感謝と
尊敬の気持ちを
大切に!

今自分があるのは
周りの人の
おかげじゃないか!

ルールも
動き方も
教えて
もらったんだ!

バスケットボール
八村塁

そしてそれは
現在の活躍にも
活かされている

以来
八村選手は